

教科（科目）	理科	学年（系）	1年
使用教科書	未来へひろがるサイエンス 1年（啓林館）		
副教材等	確認から発展へ（学宝社） 新ワーク理科1 啓林（好学出版）		

1 学習目標

- 自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。
 - (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
 - (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 指導の重点

- ・授業を核とした、確実な基礎知識の理解を図る。
- ・体験を通じた技能の定着と理科への関心・意欲の向上を図る。

3 指導計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	備考
4	いろいろな生物とその共通	○確認から発展へ ○新ワーク ○授業プリント ○実験プリント	○身の回りの生物の観察 ○花のつくり ○子葉、葉、根のつくり ○種子をつくらない植物 ○植物の分類	10	
5			○動物の体のつくりと生活 ○背骨のある動物 ○背骨のない動物 ○動物の分類	10	
6	1章 身の回りの物質とその性質		○物質の区別 ○重さ・体積と物質の区別	7	前期中間考査
7	身のまわりの物質		○気体の区別 ○身のまわりのものから発生した気体の区別	10	
9		3章 水溶液の性質	○物質のとけ方 ○濃さの表し方 ○溶質のとり出し方	11	前期期末考査
10		4章 物質のすがたと状態変化	○物質のすがたの変化 ○状態変化と温度 ○混合物の分け方	12	
10	光・音・力による		○光の進み方 ○光が通り抜ける時のようす ○レンズのはたらき	7	
11		2章 音による現象	○音の伝わり方 ○音の大小と高低	6	後期中間考査

1 2		3章 力による現象	○確認から発展へ ○新ワーク ○授業プリント ○実験プリント	○力のはたらき ○力の大きさのはかり方 ○重さと質量 ○力の表し方 ○1つの物体に2つの力がはたらくとき	7	
1	生 き て い る 大 地	1章 身近な大地		○身近な大地の変化 ○地域の大地の観察	4	後 期 期 末 考 査
		2章 ゆれる大地		○ゆれの発生と伝わり方 ○ゆれの大きさ ○日本列島の地震	8	
2		3章 火をふく大地		○火山の噴火 ○マグマの性質と火山 ○マグマからできた岩石 ○日本列島の火山	7	
3		4章 語る大地		○地層のでき方 ○地層の岩石 ○地層・化石と大地の歴史 ○大地の恵みと災害	6	

計 105 時間(48分授業)

4 課題・提出物等

- ・週末課題は授業の進度に応じて出題します。
- ・夏季休業中では、自由研究を実施し、レポートを提出してもらいます。優れた研究は、郡市の発表会に選出します。
- ・週末課題を中心とした課題提出があります。
- ・その他、授業や実験でのプリントの提出があります。

5 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価基準
自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	<評定> 各観点の合計点達成率 5…80%以上 4…70%以上 3…50%以上 2…40%以上 1…40%未満
以上の観点をもとに、 ・授業の取組（授業態度や学習活動への参加状況） ・課題への取組状況 ・小テスト、定期考査 ・実験プリントや自由研究（前期のみ） などから総合的に評価します。			

6 担当者からの一言

小学校の理科より授業の内容も難しくなっていきますので、日々の授業の時間を大切にし、週末課題などとおして自分がどこまで理解できているのかの確認しながら学習を進めていきましょう。また、観察・実験の際は、自らの手で行うことを大切にし、班のメンバーと意見を交わしながら考えを深めていきましょう。